

| | |
|-------------------------------|--|
| 学校名 | [和歌山県] 和歌山市立高松小学校 |
| 助成活動のテーマ | 自分の命は自分で守る！～まちと人の未来のために、子供が主体的に動き出す実効性の高い防災教育を目指して～ |
| 主な教科領域等 | 教科領域（総合的な学習の時間） |
| 助成活動に参加した児童数 | （5学年76人、6年生73名） 携わった教員数8人 |
| その他の参加者数 | 地域住民・保護者（80人）その他（市/地域安全課4人、和歌山大学教育学部災害科学教育研究センター教授1人、和歌山県/総合防災課4人、東北大学結プロジェクト3人） |
| 助成活動期間 | 平成28年5月11日 ～ 平成29年3月24日 |
| 想定した災害 ※該当するものに丸をつけてください。複数可。 | 地震・津波・台風・洪水・河川氾濫・土砂・その他（ ） |

■助成活動の目的・ねらい

近い将来必ず来ると言われる南海トラフ巨大地震。そのとき自分の命と大切な人、もの、こと、そしてふるさと「たかまつ」を守るための正しい知識、判断力を培い、率先して実践する力を養うことを目的とする。

■助成活動内容

- 【知る】写真や話などの情報から巨大地震・津波について知る。
- 【課題意識を持つ】防災チャレンジャー発足！！「自分たちの町は大丈夫なのか？」という課題意識を持ち、高松地域を実際に歩いて調査する。
- 【追究する】集めた情報をもとに被害の状況を地区ごとにまとめ、出し合い、そのときどのように行動すべきか考え話し合う。自分たちの考えをまとめたマップをもとに発表し、地域の方や大学の先生、市の地域安全課の方に意見を伺う。減災・防災計画をより実効性のあるものに高め、1枚の防災マップに仕上げていく。
- 【まとめる】地域の方や大学の先生、市の方から頂いた意見も取り入れて、減災・防災計画をより実効性のあるものに高め、1枚の防災マップに仕上げていく。完成させた防災チャレンジャーの減災・防災計画を市長さんや地域の方、大学の先生を前にプレゼンしてご講演いただく。
- 【活用する】学校全児童にたかまつ減災・防災計画をプレゼンし、実際に秋葉山まで避難訓練を行う。6年生は、防災ずきんを手作りして新1年生に贈る作業を進める。

■成果① 減災(防災)教育活動・プログラムの改善の視点から

・指導する教員が、先に実際に東日本大震災の状況を見聞きし、未来を見据えて子供たちにどのような教育プログラムを推進しているのか、その意図と現状を学ぶ研修を経ることができたのは、非常に有効であった。また、防災学習シートは全国共有の財産として、各学校のおかれた条件・状況に応じてフレキシブルに活用できる素晴らしいものであると考えている。

■成果② 児童生徒にとって具体的にどのような学び(変容)があり、どのような力を身につけたか。

・子供達が主体的・能動的に減災・防災について考え、課題を持ち、自らの足や手で学びを獲得していく教育活動が行えた。津波が、どの川を遡上してどの場所がどの程度浸水するのか、土砂崩れの危険性がある箇所はどこなのか、交通がマヒするのはどこなのか、実際に歩きながら確認し、具体的な第1次避難場所を理解することができた。また、自分のことだけでなく地域のお年寄りや小さい子供の命にも考えを及ぼせ、ふるさとたかまつを守るために「自分が動く」という意識を持つことができた。

■成果③ 教師や保護者、地域、関係機関等の視点から

・防災チャレンジャー報告会1に、多くの地域住民の方がお越しくださって、さまざまご意見をいただくことができた。同時に子供の調査活動が意欲的・主体的に行われ、実効性のあるものになっていることに高い評価をいただいた。和歌山大学教育学部災害科学教育研究センター教授からは、専門的な見地からたかまつの地域の特性と被害について教示いただき、地域の方と一緒に学ぶことができた。地域、関係機関、また市長さんとのつながりが深まる契機となった。

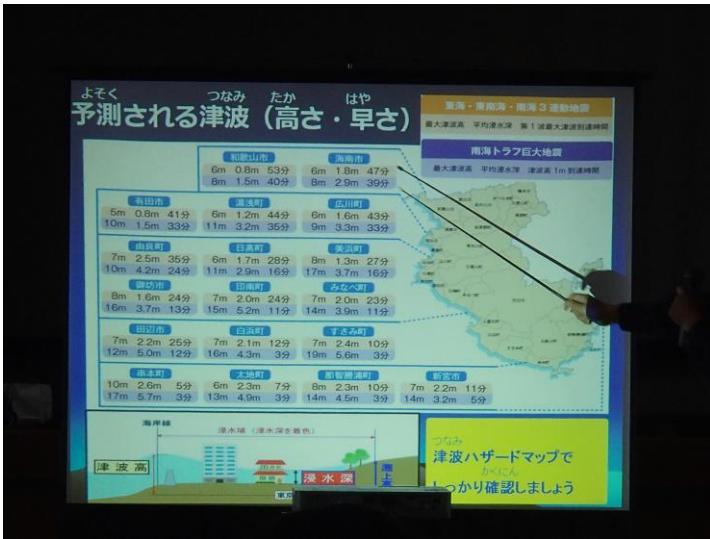
■自校の実践で工夫した点、特筆すべき点

・防災チャレンジャー報告会を3段階（1回目:地域・保護者・教授に対し地区ごとに）（2回目:市長さんに対し高松地域全体について）（3回目:全校児童に報告し、その後実際に第1次避難の訓練）に分けて行うことで、子供たちの学びは深まり、減災・防災の主体的リーダーとしての意識が高まった。6年生は、手作りの防災ずきんを新1年生に向けて製作することを伝統としていく。5年生で防災リーダーとしての自覚を持ち、6年生となって次の世代へと、その願いをつないでいく。学校が「FISH」の精神をもって、現在・防災教育を継続して行うことの重要性を強く感じた。

■実践から得られた教訓や課題と今後の改善に向けた方策や展望

・次年度は、年間を通し全学年において、発達に応じた減災・防災学習をカリキュラムに組み入れていく。まずは「防災学習シート」を活用し、全学年で週1回モジュール学習に減災・防災を取り入れる。3年生以上は総合的な学習の時間を使って、減災・防災単元を組み実践していく。

1 【知る】 写真や話、起震車などの体験・情報から巨大地震・津波について知る。



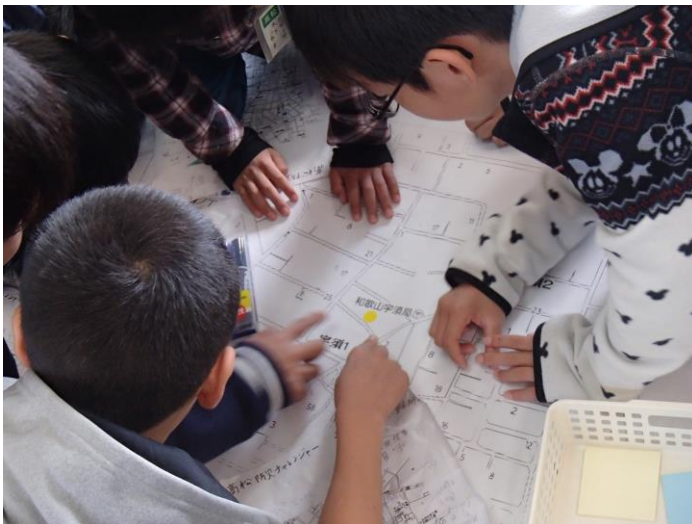
2 【課題意識を持つ】

防災チャレンジャー発足！！「自分たちの町は大丈夫なのか？」という課題意識を持ち、高松地域を実際に歩いて調査する。



3 【追究する】

集めた情報をもとに被害の状況を地区ごとにまとめ、出し合い、そのときどのように行動すべきか考え話し合う。自分たちの考えをまとめたマップをもとに発表し、地域の方や大学の先生、市の地域安全課の方に意見を伺う。減災・防災計画をより実効性のあるものに高め、1枚の防災マップに仕上げていく。



【発表1】

自分たちの考えをまとめたマップをもとに発表し、地域の方や大学の先生、市の地域安全課の方に意見を伺う。





(4) 【まとめる】

地域の方や大学の先生、市の方から頂いた意見も取り入れて、減災・防災計画をより実効性のあるものに高め、1枚の防災マップに仕上げていく。完成させた防災チャレンジャーの減災・防災計画を市長さんや地域の方、大学の先生を前にプレゼンしてご講評いただく。



子供たちの活動は、新聞にも大きく取り上げられました。

地域の危険を見直そう

高松小児童が防災ツアー

高松市立高松小児童が、市内各地を回り、地域の危険箇所を調査する「防災ツアー」を実施した。児童らは、消防団や消防士から、火災や地震の危険性について指導を受けた。また、市内各地の危険箇所を回り、危険箇所を調査した。児童らは、消防団や消防士から、火災や地震の危険性について指導を受けた。また、市内各地の危険箇所を回り、危険箇所を調査した。



高松市立高松小児童が、市内各地を回り、地域の危険箇所を調査する「防災ツアー」を実施した。児童らは、消防団や消防士から、火災や地震の危険性について指導を受けた。また、市内各地の危険箇所を回り、危険箇所を調査した。

津波のときどう逃げる？

高松小避難経路確認

高松市立高松小児童が、津波のときどう逃げるかを学ぶ「津波避難経路確認」を実施した。児童らは、消防団や消防士から、津波の危険性について指導を受けた。また、市内各地の危険箇所を回り、危険箇所を調査した。



高松市立高松小児童が、津波のときどう逃げるかを学ぶ「津波避難経路確認」を実施した。児童らは、消防団や消防士から、津波の危険性について指導を受けた。また、市内各地の危険箇所を回り、危険箇所を調査した。

地元を災害から守ろう

高松小が市長に防災発表

高松市立高松小児童が、市長に防災発表を行った。児童らは、消防団や消防士から、防災について指導を受けた。また、市内各地の危険箇所を回り、危険箇所を調査した。



高松市立高松小児童が、市長に防災発表を行った。児童らは、消防団や消防士から、防災について指導を受けた。また、市内各地の危険箇所を回り、危険箇所を調査した。

防災マップ授業で手作り

高松小、南海トラフに備え

高松市立高松小児童が、南海トラフ巨大地震に備える「防災マップ授業」を実施した。児童らは、消防団や消防士から、防災について指導を受けた。また、市内各地の危険箇所を回り、危険箇所を調査した。



高松市立高松小児童が、南海トラフ巨大地震に備える「防災マップ授業」を実施した。児童らは、消防団や消防士から、防災について指導を受けた。また、市内各地の危険箇所を回り、危険箇所を調査した。